

議案第122号
公の施設（宝塚市立国際・文化センター）の指定管理者の指定について

資料1 選定委員会から市長への答申

令和7年(2025年)8月8日

宝塚市長 森 臨太郎 様

宝塚市立国際・文化センター指定管理者選定委員会
委員長 野崎 志帆

宝塚市立国際・文化センター指定管理者候補者の選定結果について（答申）

令和7年(2025年)5月28日付け宝塚市諮問第4号で諮問のありましたみだしの件について、指定管理者の候補者を選定しましたので、下記のとおり答申します。

記

1 選定内容

(1) 選定の目的

宝塚市立国際・文化センターを管理する指定管理者の指定期間が令和8年(2026年)3月31日をもって満了するため、令和8年(2026年)4月1日から令和13年(2031年)3月31日までの5年間における当該施設の指定管理者として適切な候補者を選定します。

(2) 選定する施設

宝塚市立国際・文化センター

(3) 申請の状況

以下の者から申請がありました。

特定非営利活動法人宝塚市国際交流協会

2 審議内容

(1) 選定委員会委員

委員長 野崎 志帆（甲南女子大学国際学部 教授）

委員長職務代理者 榎井 緑（藍野大学医療保健学部 教授）

委 員	越知 昌賜（宝塚 NPO センター 理事、元兵庫県立大学 経営学部 特任教授）
委 員	山市 良子（宝塚市日本画協会 会長）
委 員	杉本 幸裕（市民公募委員）

（2）選定経緯

- ア 第1回選定委員会 令和7年（2025年）5月28日
（選定方針・業務の概要・選定基準及び応募者の指名等の決定）
- イ 申請期間 令和7年（2025年）6月 3日から7月 4日まで
- ウ 第2回選定委員会 令和7年（2025年）8月 6日
（書類審査及びプレゼンテーション審査の実施、候補者決定）

（3）審査方法

採点項目（15項目）と配点（120点満点）を設定し、提出された申請書類並びにプレゼンテーション及び質疑応答の内容を審査し、各項目を5段階で評価することとしました。選定に際しては、委員5人の評価点を合計して600点満点とし、360点（60%）を必要最低点数と定め、この点数に満たない場合は候補者に選定されないこととしました。

3 選定結果

（1）指定管理者の候補者

特定非営利活動法人宝塚市国際交流協会の総評価点は、600点満点中479点（79.8%）で、必要最低点数360点（60%）を上回っていました。

これら各委員の審査結果に基づいて委員会で審議を行った結果、以下の申請者を指定管理者の候補者として選定することが適切であると決定しました。

住 所 宝塚市南口2丁目14番1－3号
名 称 特定非営利活動法人宝塚市国際交流協会
代表者 理事長 大世古 健治

（2）選定理由

宝塚市立国際・文化センター条例第18条第1項の規定に基づき、宝塚市立国際・文化センターの管理を行わせるに最適な団体として、特定非営利活動法人宝塚市国際交流協会を引き続き指定管理者申請対象とすることが適当と判断しました。評価点数は600点満点中479点で79.8%の評価点率でした。

選定に当たり、当該団体は、充実した市民ボランティア組織を活かした国際交流事業

等の実績が豊富であり、市民のニーズや社会の変化に対応しようという姿勢が見られ、限られた予算や人材の中で精力的に様々な事業に取り組んでいる点が特に評価されました。

また、当該団体は、長く当該施設の管理運営を行っていることから、市との信頼関係が構築できており、堅実な計画のもと、安定した安心できる管理運営が図られることが期待できます。

以上を踏まえ、本委員会としては、同団体を指定管理者の候補者として選定することが適当であると決定しました。

4 選定に当たって

当該団体を指定管理者の候補者として選定するに当たり、本委員会としては特に以下の点について十分な理解と配慮を求め、提案内容を誠実かつ確実に履行するよう努められることを望みます。

- (1) 日本語教室や生活相談などの外国人市民支援事業が、近年、最優先課題として位置づけられてきている一方で、外国人市民が日本で生活する困難さを理解し、お互いの文化の違いや対等な立場を認め合う多文化共生の促進を目的とした取組についても、引き続き重要な事業として取り組むこと。
- (2) 資金計画や財産の状況を踏まえて収益性の改善を検討するとともに、今後増加するであろう外国人市民の多様化に付随する複合的課題、更には AI の活用などに伴う社会情勢の変化に応じた事業展開に引き続き努めること。
- (3) 当該団体が、外国人市民をサポートする最前線に置かれている現状を踏まえ、外国人市民の人権保障という点から、同団体が負うべき責務を超える事案については宝塚市と積極的に情報共有し、市の長期的なビジョンに資するよう努めること。